

研究タイトル: **利用者情報と提供情報価値を考慮した情報共有のためのネットワークシステムに関する研究**



氏名:	高橋 晶子 / TAKAHASHI Akiko	E-mail:	akiko@sendai-nct.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(情報科学)
所属学会・協会:	情報処理学会		
研究分野:	コンピュータネットワーク		
キーワード:	情報の価値, プライバシ, 個人情報		
技術相談 提供可能技術:			

研究内容:

【インターネット上での情報共有】

SNS(Social Networking Service)をはじめとしたインターネット上の様々なサービスを介した利用者間での情報共有が日々行われている。これらの情報共有は、主にインターネットサービスの一般利用者から提供された情報をそのまま共有することにより行うため、一般的なマスメディア等から発信される情報よりも迅速に詳細なより多くの情報を共有することが可能である。しかし、実際にインターネットを介した情報共有サービスに情報提供を行った経験を持つ利用者は少なく、一部の情報提供を行う利用者からの情報が大部分を占める。そのため、情報共有サービスに提供される情報に地域的・時間的な偏りが生じたり、提供者の主観が大きく反映されるなど、一般利用者が必要とする情報の提供が十分に行われず、必要とされる情報を常に適切に一般利用者とは共有することは困難である。したがって、一般利用者に情報提供を促し、情報提供を行う利用者数を増加させることで多くの情報を収集して、情報共有を行う手法が求められる。すなわち、情報提供を行う利用者の利用者情報に考慮しつつ、情報提供を行う利用者に対して情報提供を行う誘因を与えることで、積極的な情報提供を促す仕組みが求められる。

【情報提供の誘因】

情報提供を行う利用者に対して情報提供を行う誘因を与える手法としては、情報の提供を行う利用者が情報提供を行った際に、何らかの特典を付与するなどにより情報提供を行う誘因を与える手法が提案されているが、特典により情報の提供者が感じる満足度は提供者一人一人異なるため、情報提供を行う誘因となるような満足度を与える特典を付与することは困難である。そのため、提供者の価値観を考慮して提供者に付与する特典を決定する手法が求められる。これに対し、情報の内容や質に応じて情報の価値を決定し、その価値に応じた特典を付与する手法を検討している。

【利用者情報の考慮】

一般的に、インターネット上のサービス利用に対して、個人情報やプライバシーに不安を持つ利用者は多く、サービス利用に必要な最低限の利用者情報の開示によってサービスを利用できることが求められる。これに対し、ゲーム理論等による、合理的な利用者情報の開示程度を決定する手法を検討している。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	